

「きょうだい児」って知ってますか？

このところ「ヤングケアラー」という言葉がよく聞かれるようになり、本来大人が担うべき家事や家族の世話などが重い負担になっている子ども達への支援や対策について取り上げられるようになっていきます。

ヤングケアラーと重なる部分もあるかもしれないのですが「きょうだい児」という言葉も聞かれるようになりました。「きょうだい」が平仮名なのは、兄弟、兄妹、姉弟、姉妹の兄・弟・姉・妹のどの組み合わせも含む言葉になっているからだそうです。きょうだい児が成人後に指摘した感想などから状況が想像できます。

- ・親が本人（障害児）の養育にかかりきりになり、親の接し方、評価が平等でなかった。
（本人に優しく、きょうだい児に厳しい。親から愛されていないと感じる等）
- ・小さいときから、本人の身の回りの世話（食事、排泄、着替え、洗濯、服薬等）をさせられた。
- ・周囲の友だちや近所の人から、心ない言葉を浴びせられ傷ついた。
- ・大好きな本人を、自分の彼氏や彼女に紹介できず、そんな自分が嫌になった（悩んだ）。
- ・就職した後も、ずっと本人の面倒を見続けており、親元を離れる（独立する）ことができない。
- ・親が死んだら、面倒をみるのはあなたと言われた。 など

もちろん、非常によい状況のご家族も多いと思います。これまでも仲良し兄弟姉妹をたくさん見てきましたし、本人と接してきた経験もあり、特別支援学校の教員や福祉施設の職員を目指す人達にもであってきました。ただ、年齢が低いときには、こういった前向きな気持ちになれていなかったり、家族の愛情を求めていることもあるかもしれません。それぞれの家庭環境や家族構成によっても違いますが、もしかすると“きょうだい児”が孤立感や負担感を抱えている状況があるかもしれません。

進路だよりでは、本人の卒業後の自立について取り上げていますが、きょうだい児の進路や自立、将来についても目を向けて、互いに納得のできる進路（人生）となるよう気に掛けて、準備してあげていただければと思います。

高等部作業学習「育成班」の宿題から

少し考えたり練習したりすればできることも多いのですが、すぐに「分からないので教えてください！」等と大人に頼ったり、何もせずにたたずみ？教師からの言葉かけを待つ傾向の生徒もいます。少し考えればできることでも、自分で考える前に大人に頼ってしまう、そういった傾向は育成班の生徒達にも見られます。

そこで、ちょっとした試練となりそうな課題に取り組んでみました。説明書を見ながら順番にブロックを組み立てる課題です。ブロックは100均に売っているものです。やることは“同じ形のブロックを探す”“①から順に組み立てる”だけです！

皆、説明を受けているときには分かった気持ちになるのですが、“一人でやる”となると急に不安にもなり分からなくなります。すぐに大人に頼らず、生徒同士で教え合う場面をつくります。教え合うことにより教える側もより深く理解でき、互いに協力する気持ちも育てられるようにしています。

1つ完成させると、なんとなく説明書の見方を覚えられます。覚えてしまえば別のことで、たとえば初めての作業や料理でも、手順表（レシピ）を見ながら、一人でできるようになります。冬休み前に練習し、宿題として一人6～7個組み立てました。やればできる～！

